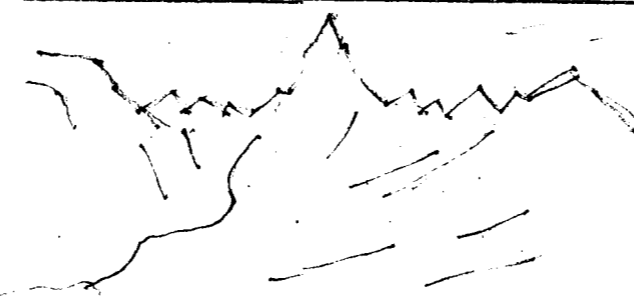


最後のスキー 槍沢

者 藤 造



5月29日(土)

前夜10時すぎに車で出発。中央道諏訪サービスエリアにて仮眠し、7時すぎに上高地へ着く。

一路槍沢へ向う。一の谷付近までは、ほとんど平坦地なので、運動靴の陶山氏と私は足元はとても軽快だ。ガ靴の分だけ荷は重い。肩がいたい。なんと長い平坦地歩きだと思っていまうちに、槍沢ロッジに着く。ロッジで雪の状況をたしかめ、大休止にする。

ピッケル、余分な荷をロッジにあずけ出発、約1時間で2100mの大曲付近に着く。ここからやっとな雪の上になる。スキーを引っぱり約40分ほど登り2400m付近の岩のでいてるところに着く。今日はここまでし、いよいよ滑降に移る。あまり良い雪質とはいえないが、待たがぬた滑降に1人で滑る。たった10分ちょっとで大曲までおりてしまう。朝から歩いた割には滑り時間が短いとボヤキながら、ロッジへもどる。

夕食を取り風呂に入り、今日の疲れをいやす。

5月30日(日)

心配した天気は晴れ、昨日大曲にスキーをデポしてくれば良かったと思いつながらロッジを出発する。雪深を3ピッケルで槍の肩に着く。2400m付近からはガスが出てきた。むげらくぶり。今シーズン2度目のスキー(?)なので体が疲れる。最後の1ピッケルは苦しくてしょうがない。トレーニング不足を感じる。スキーをデポして頂上へ向う。今度は岩登りの感じになる。雪は全々ない。夏だといふ多くの人がこみあうところだ。あいにく頂上からの展望はガスのためまったくなし。

肩までまどり、いよいよ槍沢大滑降に移る。ガスで視界悪い。あまり落石は落ちていない。途中、写真を撮ったりしながら、滑るが、約30分で大曲についてしまう。雪の状態は、上部はまあまあだが2400mから下は水分も多くなる。スキーもあまり滑らず、ころんでもすぐ止まるので、身心して滑ることになった。斜度もそんなに急ではないと思えるが、一気に滑って降目には、体力がいるようだ。足が疲れてしょうがない。やはり昨日の上高地からの歩きが原因か? 時間は早い。登りがえす気にもなれず

ロッジへもどりこじにする。途中で少し雨がふってきた。ロッジでじっくり4人等のまんがなどを読み、のんびりとする。今日は我々の他に1人の泊り客しかいない。

5月31日(月)

雨もふらない。雨が、たと思いつながら、上高地へひたすら下る。途中、ウドを取ったり、少しゴミをひろって、たりにして帰る。

しかし、滑り時間の割にはアッローの長い山行になった。あまり効率の良いところはない。スキーも持った人が少ないはずだ。

(者藤)

(タイム)
5/29 上高地8:30~槍沢ロッジ12:50/2:30~2400m 3:30/55
~大曲(2100m) 4:10/25~ロッジ 5:10

5/30 ロッジ6:10~2100m 7:11/25~2400m 8:05/15~槍の肩 10:5/60
~頂上 10:40/11:00~肩 11:20/30~2100m 12:05/30~ロッジ 1:05

5/31 ロッジ6:50~上高地 11:10
(メンバー)
菅沼, 作野, 陶山, 者藤.

天狗岩

1982年6月27日 雨のちくもり

Xンバー: 菅沼, 陶山, 小森宮, 者藤, 安達, 石垣, 田中(建), 高野, 今野, 古川, 蔵田 11名

昨年同様雨の為天狗岩に変更。ザイルの結び方、三点支持確保、下降器による下降等の練習を行った。場所も狭ま、ルートも少ないので効果的な練習はできなかった。

新しいブーリン結びの方法は完全にマスターしておいて下さい。(菅沼)

タイム: 略